



桃三小

令和6年度10月号 No.628

令和6年9月30日

杉並区立桃井第三小学校

校長 杉浦 敬

対話を通し深い学びを

研究主任 渡邊 玲子

桃井第三小の学校教育目標の『共に生きる子ども』を目指す中に、「かんがえる子」という、大きな柱があります。学習の場面だけでなく、学校生活のあらゆる場面で、よく考えることができる子を育てていきたいと願っています。そのため、授業では対話する時間を意図的に設け、仲間との意見交流によってじっくり考える時間を取っています。1時間の中に対話する時間を位置づけ、仲間との意見交流によって、生き生きと意見を言い合える活動を確保することを大切にしています。子供たちは、タブレットの画面を見ながらの意見交流や、班隊形での意見交換や意見づくりなどを積極的に行っています。仲間と一緒に学習したり活動したりする喜びを感じたり、人と人とのつながりを実感したりすることで、多くの学びがあります。対話する利点は、児童自身で考えを深め、新しい認識を獲得する点にあります。先生や教科書からの知識ではない、子供たちが自分たちで感じたり考えたりしたことによって得られた知識は、生きた知識として自分事として残りますし、課題解決に取り組んだ自信は、今後の学習に向けてのやる気につながります。

今年度、本校では、「主体的・協働的に学ぶ児童の育成」を主題とし、国語科の校内研究を進めています。学習の中で効果的な「対話」を取り入れ、より深い学びにつながるよう意識しています。

1学期に校内研究で行われた研究授業について紹介します。2年生の国語科「スイミー」の学習では、一人一人の素直な思いや考え、疑問から「問い」をつくり、楽しく読むだけでなく、正しく読むことを目指しました。友達に自分の考えを伝える対話的な活動の際は、考えの理由をはっきりさせて伝えることを意識させ、より読みが深まるような工夫を授業に取り入れました。対話することにより、読み取ったことを基に、登場人物の言動や理由を、2年生なりに自分の言葉で表現しようとする姿がたくさん見られました。

対話的な学びは、国語に限らず様々な教科でも行われ、発達段階に応じて実践されています。その中で、一人一人がもっている考え方や情報などを互いに伝え合って、それを共有することができます。また、相手が伝えるものと、自分が伝えるものとを比較して、新しい思考を創り出すことができます。周りの人と積極的に対話をすることで、児童がより主体的に学習に取り組み、学びを深め、その過程を楽しむことができるよう授業改善に取り組んでいきます。

◆梅組との交流について◆

9月に1年生と梅組でバルーンを行いました。みんなでバルーンを持つと自然に笑顔が広がり、力を合わせて大きくバルーンがふくらむと、一緒に歓声が上がりました。とても楽しい交流ができました。今週からは、アクティブ DAY に向け、各学年の体育の授業に参加して表現や徒競走の練習を一緒に行っていきます。生活科見学や社会科見学も一緒に行きます。一緒に学習したり、協力し合ったりすることを通じて、お互いの理解が深まっていくよう今後も交流活動を行っていきます。

梅組担任

◆10月の目標◆

生活目標…自分から仕事をしよう。
保健目標…安全な生活をしよう。
給食目標…決められた時間に食べよう。

「俺は俺の責務を全うする!!」これはある少年マンガのセリフです。この漫画に出てくるキャラクターは、誰もが自分に与えられた職務に誇りと自信をもち、真剣に取り組む姿がありました。アクティブ DAY、音楽会と大きな行事が続きますが、一人一人が自分のできること、すべきことを見つけ、全力で取り組んでいてもらいたいと思います。